

(尾島)小寺菊子 小説家。<大正デモクラシー>前後に一世を風靡したが、結婚後は専作になり、戦時中に筆を折った。

こでらきくこ

秩父事件・1884 = 富山県に生れる。薬屋を営む尾島英慶・ヒロの次女。

帝国憲法発布1889 = 5歳 :

一家離散の憂きめにあって、

郡司千島探検1893 = **9歳** :

日清戦争始・1894 = 10歳 :

地元の高等小学校卒業後、上京し、

東京府教育会教員養成所を出て、小学校教師・タイピスト・記者などの職業を転々とする。

貧苦の中で、文学に志し{少女界}に少女小説を投稿。

のち徳田秋声に師事し、

教科書疑獄・1902 = **18歳** :

日比谷公園・1903 = 19歳 :

秋香女史の名で処女作「破家露」を発表。

日露戦争終・1905 = 21歳 :

その後、本名で「妹の縁」「磯系たる女」、

アヲキ 創刊・1908 = 24歳 : 「少女の一念」、

韓国併合・1910 = 26歳 :

「文子乃涙」「赤坂」などにより、次第に小説家としての名が高まる。

大逆事件判決1911 = **27歳** :

*父の犯罪をモチーフにした「父の罪」が大坂朝日新聞の懸賞小説に入選して脚光を浴び、青鞥社に入る。

明治天皇没・1912 = 28歳 :

次いで逆境の中での女性の苦闘を自然主義的筆致で描く「拍子木の音」「恋の追想」「朱蠟燭の灯」「頬紅」などを発表。{婦人画報}の記者としても活躍する。

第一次大戦始1914 = 30歳 :

「紅あざみ」。児童文学「小鳥のささやき」。進学の夢を絶たれた少女の悲しみ描く *代表作「綾子」。

21ヶ条要求・1915 = 31歳 :

画家小寺健吉と結婚。「紅ほづき」「百日紅の蔭」、

ロシア革命・1917 = 33歳 :

*児童文学「十八の娘」。以後、小寺菊子名になる。

大暴落・1920 = **36歳** :

原敬首相暗殺1921 = 37歳 :

治安維持法・1925 = 41歳 : 随筆集「美しき人生」、

共産党事件・1928 = 44歳 : 「情熱の春」、

世界恐慌・1929 = **45歳** :

満州事変・1931 = 47歳 :

二二六事件・1936 = 52歳 : 「深夜の歌」、

日中戦争始・1937 = 53歳 :

健保+総動員 1938 = **54歳** :

日米開戦・1941 = 57歳 :

..... 1942 = 58歳 : *随筆集「花・犬・小鳥」を出し、筆を折った。

敗戦・1945 = 61歳 :

新憲法施行・1947 = **63歳** :

独立回復・1951 = 67歳 :

国連加盟・1956 = **72歳** : 没した。